

## デジタルとアナログ

近年、様々な場面でデジタル化された情報が私たちの目に飛び込んできます。

最も身近なものは時計です。デジタルの時計は確かに現在時刻を瞬時に告げますが、アナログ時代にはあった重要な情報を告げることができません。アナログ時計は、現在時刻を表示するとともに、「6時まであと10分」とか、「5時30分から1時間経過した」などという、時間の経過も同時に伝えていたのです。このように、デジタル化は一見便利なのですが、大事なことが欠落している気がしてなりません。

私たちの日常に入り込んできたメールもその一つです。相手がなにをしようかと、とりあえず用件を伝えることの出来るメールは、確かに便利です。しかし、そのメールを受け取った人の表情や言葉の響きなどから相手の心情を読み取りながら会話するということが出来ないために、電話や直接会話する場合と違って、どうしても一方的な情報伝達になっています。

そのため、しばしばトラブルを生じさせていることも事実です。そもそも、人が人に情報や自分の思いを伝えるという行為は、相手とのふれあい为基础にあつて成り立つものです。ところが、メールでは相手の感情を無視して一方的に情報を伝達するものですから、不特定多数の人々への呼びかけの場合とは大きく、個人間のやり取りの場合はその使い方には工夫が必要で、ここでも、重要なことが抜け落ちていけると言えます。

不特定多数へのメッセージと言う形を装いながらも、多くの人々を傷つけているのがインターネットへの(※1)差別書き込みです。インターネットでは、誰もが差別情報に簡単にアクセス(接続)できます。意図せずとも偶然に、差別書き込みの掲示板に接続してしまうこともあり、誤った情報から差別意識を持つてしまう危険性もありますし、名指しされなくてもそこに掲載されている被差別の立場にある人たちは深く傷つくこともあり、ましてや、子どもたちへの影響は深刻です。

このように、デジタル化された

情報を一方的に相手に伝えることによつて、逆に人と人とを分断しているということも考えられます。

人は、人と出会い、語らいの中で励まされ、癒されながら生きていくものではないでしょうか。デジタル化された情報が、人と人との繋がりを遮断するとすれば、アナログな人と人との繋がりを求めようか。



(※1)

平成14年に、「インターネット開示版差別書き込みについて考えるプロジェクト会議」が把握できただけでも、ネット掲示板には2,370件の問題ある書き込みがあり、そのうち明らかに差別的な内容のものが、1,418件ありました。その中でも部落差別に関わるものが大半を占めており、1,075件(約76%)ありました。しかし、これは問題ある掲示板の一部であつて、他にも多数存在すると考えられます。(奈良県人権情報誌「かがやき・なら」第214号より)

## 南部町男女共同参画 推進会議総会



総会での様子

平成18年5月23日、役場天萬庁舎で、南部町男女共同参画推進会議の総会が開かれ、昨年度の事業報告や今年度の事業計画等が話し合われました。

この会議は「南部町の男女問題を総合的に解決し、男女が社会において対等な立場で、社会的利益等を受け、かつ、ともに責任を分かち合う社会を目指す」ことを目的として活動しています。

※ 今年度の事業の詳細については、「情報なんぶ」等で、紹介していきます。